

国際規格の動向—国際会議に出席して— ISO/TC61 (プラスチック)バルセロナ国際会議

須賀 茂雄

ISO/TC61 (プラスチック)国際会議は、2012年9月17日～21日にスペイン・バルセロナにおいて開催された。喜多英雄と共にSC6/WG2 (老化、耐薬品性、耐環境性部会の光暴露)・SC5/WG11 (物理・化学的性質部会の中の分析方法)会議に参加し、片野邦夫・Yasuko Fitch Hatanoは、SC4/WG8 (燃焼挙動部会の着火と燃焼の広がり及び燃焼発熱)会議に参加した。

SC6/WG2には、ドイツ・チェコ・フランス・韓国・英国・米国・日本の7か国17名、SC5/WG11には、英国・米国・ドイツ・タイ・オランダ・日本の6か国11名、SC4/WG8には、英国・ベルギー・フランス・南アフリカ・日本の5か国10名が参加し、次の項目について審議が行われた。

■ISO 4892-1,-2,-3,-4 (実験室暴露試験)

SC6/WG2では、

- ①ISO 4892-1 (実験室暴露試験—通則)の改正:DIS文書が遅れ、今年の12月1日までに米国が準備する事となった。
- ②ISO 4892-2 (実験室暴露試験—キセノン)の改正:再修正する文書をDIS2投票結果を審議し、FDIS投票として回送する事となった。
- ③ISO 4892-3 (実験室暴露試験—紫外線蛍光灯)の改正:再修正する文書を内部回送したが、日本とドイツのコメントが考慮されず、FDIS投票として回送する事が出来なかった。再度修正文書を内部回送し、大きなコメントがなければ、FDIS投票として回送する事となった。
- ④ISO 4892-4 (実験室暴露試験—サンシャインカーボンアーク)の見直し:日本が修正版を織り込んだ本文を作成する事となった。
- ⑤ドイツより提案された、標準全天日射分光放射照度は新規提案として認められ、審議の結果次のステップに進める事となった (TR 17801)。
- ⑥ドイツより提案された、標準太陽光と実験室暴露試験用光源との一致度を特徴づけるパラメータは新規提案として認められ、審議の結果次のステップに進める事となっ

た (TR 16486)。

⑦韓国より、人工芝の試験として摩擦試験と耐候性試験との組合せについてプレゼンテーションが行われ、審議の結果更なる試験と文書の修正を行う事となった。

⑧ドイツより、新規提案の案として、耐候性試験の照度と暴露試験結果との相互依存性の実験についてのプレゼンテーションが行われた。

ここ数年ドイツ・韓国からの新規提案が多いのが気になる。日本もっと提案物件を増やすべきであろう。

■ISO/CD 17221 (像鮮明度)

SC5/WG11 (PL:須賀)では、日本からの写像性測定方法が2回目の試みで新規提案として認められた。ISO/CD 17221 (像鮮明度)の投票結果は賛成14、反対1 (独)であった。CD投票の結果について審議が行われ、独、マレーシア、タイ及び英国からコメントがあり、全てのコメントを議論した後、独は反対票を取り下げた。審議結果を元にする改訂文書をDISとし作成する事となった。

■ISO 4589-1,-2,-3 (酸素指数燃焼試験)

SC4/WG8 (PL:片野)では、日本からの酸素指数試験法の改正が必要であるとの見地から、検討事項を紹介し、参加メンバの賛同を得た。日本が案を作成し新規提案として提出する事が認められた。



TC61/SC4メンバ
(右端:SC4/WG9コンベンナー 吉田公一氏)

これまでの経緯は以下のとおり。

酸素指数による燃焼挙動の測定方法を規定したISO 4589シリーズ(Part1,2,3)は、その知名度、需要の高さ、汎用性に関わらず、1996年に現行の規格が発行されてから、2005年にPart 2のamendment(追補)が出た以外は改正が行われていなかった。その内容には、酸素濃度測定、制御装置の規定内容が不明確、かつ近年実際に使用されている現実的な装置構造とマッチしない部分や、試験装置構造と要求される性能の間の矛盾等をはじめとした問題点があり、昨年のsystematic review(定期見直し)にて米国、日本よりそれらが指摘されていた。その後、昨年のTC61クアラルンプール会議に於いて、ISO 4589シリーズ(Part 1,2,3)の改正をPWI(予備業務項目)として登録することが決議され、プロジェクトリーダーは日本が担当するよう要請されていた。以上を受け、TC61/SC4日本国内委員会に於いてもさらに規定内容について検討がなされ、その他の問題点、疑問点についても洗い出しが行われ、今回のバルセロナ会議を迎えた。

この町には建築家アントニ・ガウディの残した建築物が多い。サグラダ・ファミリア(2026年完成予定、違法建築だったそうである)、グエル邸(階段に鎮座しているトカゲが印象的)、カサ・ミラ等が「アントニ・ガウディの作品群」として世界遺産に登録されている。どれも非常に独創的な建築物で面白かった。



TC61/SC4/WG8会議
(右から片野邦夫、Yasuko Fitch Hatano)



サグラダ・ファミリア



カサ・ミラ



TC61 Plenary会議

IEC/TC104 (環境条件、分類及び試験方法) マンヒン国際会議

IEC/TC104 (環境条件、分類及び試験方法) 国際会議は、2012年9月25日から28日にマンヒン・ドイツにおいて開催された。主にMT16 (気象環境に関する文書のメンテナンスチーム) に参加した。会議には、アメリカ・ドイツ・スウェーデン・中国・日本の5カ国8名が参加した。特に弊社に関連する部分のみ報告する。

昨年のミラノ会議において、IEC 60068-2-60 (環境試験-第2部:試験・試験Ke:混合ガス流腐食試験) の改正が必要か否かの確認を腐食のエキスパート (ドイツ:Mr. Erler、チェコ:Ms.Kreisulova、日本:須賀) に求められていたが、日本からの改正案のみであった。

日本の改正案は、試験条件に東南アジアの気象状況を考慮する40℃80%rhを含める等であり、ほぼ全ページを審議し、実際の試験を行う上での有効な提案に対しほぼ受け入れられ、日本主導で次のステップに進める事となった。会議場はドイツのミュンヘンから車で1時間位のマンヒンにあるCASSIDIAN (航空機を作っている会社) で行われ、近くのインゴルスタットに宿泊した。こじんまりとした落ち着いた町であった。近くには自動車メーカーのアウディの本社がある。

同行の日本人からの又聞きであるが、ここはフランケンシュタインに関連がある町でもある。少し調べてみたら、英国の女性作家であるメアリー・シェリーが1818年に匿名で出版した小説『フランケンシュタイン、あるいは現代のプロメシウス』がある。そこに登場するかの有名なフランケンシュタインの怪物を創造したフランケンシュタ

イン博士が医学生として勉強していた大学がインゴルスタット大学だそうである。という事で、この町になにかゆかりの物でもないかと町中を散策していた時に見つけたレストランに置いて (飾って??) あった車のペインティングであるが、そこに彼がいた。



フランケンシュタインがペインティングされた車

会議中に午後、参加者全員でオクトーバフェストに行った事も追記しておく。オクトーバーフェストは、ミュンヘンで開催される世界最大規模のお祭りであり、毎年600万人以上の人々が会場を訪れているそうである。入場は無料で、観覧車などのアトラクション、お化け屋敷や食べ物屋など日本の祭りの屋台に相当する店が揃う。しかし祭りの中心はビールや食べ物を出す仮設レストランテントである。3月に製造して夏の間寝かせておいた味が濃く、アルコール分の高いオクトーバーフェスト用特別ビールを1リットルのビールジョッキで飲む。会場の端に、高さ20メートルほどの女性像バヴァリアが建てられ、祭りを見守っている。バイエルンの地の守護者とされるバヴァリアの銅像である。



バイエルンの守護者バヴァリア

■現在のIEC 60068-2-60 (1995) のガス腐食試験条件

規格名	試験の種類	ガスの種類と濃度	温度・湿度	試験期間
"Environmental testing - Part2: Tests - Test Ke: Flowing mixed gas corrosion test"	Method 1	SO ₂ 500 ±100 ppb H ₂ S 100 ±20 ppb	25 ±1 °C 75 ±3 %rh	4,7,10,14,21日
	Method 2	H ₂ S 10 ±5 ppb NO ₂ 200 ±50 ppb Cl ₂ 10 ±5 ppb	30 ±1 °C 70 ±3 %rh	
	Method 3	H ₂ S 100 ±20 ppb NO ₂ 200 ±50 ppb Cl ₂ 20 ±5 ppb	30 ±1 °C 75 ±3 %rh	
	Method 4	SO ₂ 200 ±20 ppb H ₂ S 10 ±5 ppb NO ₂ 200 ±20 ppb Cl ₂ 10 ±5 ppb	25 ±1 °C 75 ±3 %rh	

ISO/TC79 (軽金属及び同合金) ベルリン国際会議

ISO/TC79 (軽金属及び同合金) 国際会議は、2012年10月4日～5日にドイツ・ベルリンにおいて開催された。SC2 (アルミニウムの陽極酸化皮膜及び有機塗膜) 会議に参加した。会議には、中国・ドイツ・英国・イタリア・ポルトガル・日本の6か国20名が参加し、次の項目について審議が行われた。

(1) WG17 (有機塗膜及び複合皮膜) では、複合皮膜は FDIS (ISO/FDIS 28340 Combined coatings on aluminium – General specifications for combined coatings of electrophoretic organic coatings and anodic oxidation coatings on aluminium) 投票中との報告、有機塗膜は原案作成が遅れており次回までに英国・ドイツ・イタリアで協議のうえ原案を提出することとなった。

(2) WG19 (保護及び装飾のための表面処理) では、ガイドライン (ISO/PWI 16688 Guidelines for the selection of tests and methods of measuring the performance of coated aluminium) を日本および中国からのレポートを検討し、英国が次回までに原案を提出することとなった。

(3) 今後の課題として、アルカリ試験・クラーク試験(耐摩耗性試験)・りん酸クロム酸封孔度試験の代替試験法について今後検討することとなった。



ISO/TC79/SC2/WG17 会議風景



ISO/TC79メンバ

海外トピックス

Suga Open Lab at Agfa Labs

Agfa (Agfa-Septestraat 27,B-2640 Mortsel, Belgium) の中に「Suga Open Lab」が新設され、平成24年10月1日、開所式が執り行われた。スーパーキセノンウェザーメーターSX75型1台、キセノンウェザーメーターGX75型(グローバルモデル)2台が設置、専用のスガ商談室もあります。

Agfa-labsのホームページで開所式の模様が掲載されています。

(http://www.agfa.com/sp/global/en/internet/agfa-labs/news/Suga_Open_Lab_at_Agfa-Labs.jsp)

(左からMr.Jürgen Jung、Ms.Karin Vercauteren、須賀茂雄、Yasuko Fitch Hatano)



AGFA Labsに設置したキセノンウェザーメーター (SX75型1台、GX75型2台)